

「尾道の海のゆりかご（干潟・藻場）再生による里海づくり」

★プロジェクトの概要

中国地方整備局による航路整備の浚渫土砂を活用して造成された、4箇所の人工干潟において、浦島漁業協同組合および尾道市により、干潟・藻場の保全活動（生物生息場の保全活動、清掃活動等）が行われ、アマモ場が広がるとともに、生物の種類・個体数の増加や多様な生物の生息が確認されています。



★PRポイント

造成された干潟・藻場は、ブルーカーボンの機能だけでなく、水質の浄化や水産生物の保全・育成による食料供給、環境学習の場の提供などの多様な価値を有しています。

水質浄化



干潟・藻場の生物によるCOD浄化量が年間57トン増加

食料供給



干潟によるアサリ生産量が年間11トン増加



藻場によるメバル生産量が年間9トン増加

経済価値 年間1.2億円程度

（市場価格法と代替法による推計値）

算定方法の詳細：ブルーカーボンクレジットを活用した持続的な藻場・干潟の保全・再生活動の実践と課題－尾道市沿岸域における取り組みからの考察－、第36回 沿岸域学会講演討論会要旨集、2024.

広島県尾道市



★今後の展開



マリンスポーツ「尾道海属」や海事・観光産業との連携



地域の活性化
を目指した収益活用



干潟・藻場再生活動を継続



地域イベントでの
ブルーカーボンオフセット



地元中学生・企業との環境学習
(アマモ再生体験会)